

「くまがい眼科通信」

No.



2013・秋

残暑お見舞申し上げます。

今年は例年にも増して、猛暑の夏となりました。皆様、いかがお過ごしですか。熱中症で倒れる方も多数おられますので、しっかり対策をとっていただきたいと思います。特にお年を召した方は、こまめな水分の補給にお気をつけ下さい。

ただし、水だけ飲めば良いというわけではありません。発汗によってナトリウムなどのミネラルも大量に失われますので、「ポカリスエット」や「大塚補水液・OS1(オーエスワン)」などミネラル分を含んだ経口補水液が良いでしょう。

熱中症は炎天下にいと起こるというイメージがありますが、実は室内でも発生しています。「水を飲みたくない」「汗が出ない」「尿が出にくい」……などの症状があれば、水分の代謝が悪化していて、熱中症が始まっている可能性があります。ご心配なことがあれば、どうぞお気軽にご相談ください。

駒込にクリニックを開いて21年、私は駒込という街が大好きです。もっとこの街が豊かに活性化するように、そして皆さまが元気で長生きしていただける様に、そのお手伝いできればと願っております。そのために、眼科の領域にこだわらず、お役に立てる医療が出来ればと思っております。どうぞ、皆さまのお声をお寄せ下さい。お待ちしております。



2013年・秋
くまがい眼科院長
熊谷和久

院長の紹介 1953年熊本市に生まれる。1977年熊本大学医学部を卒業後、大学病院・市民病院で眼科診療に従事。1987年に上京し、眼科診療の傍ら、西洋医学と東洋医学を融合した「タニクリニック」で学び、中医学(中国伝統医学)の中心「北京中医学院」に留学し、東洋医学を研鑽。1992年、当地駒込にて眼科クリニックを開業。現在は豊島区の中学校1校・小学校2校・幼稚園3箇所の眼科校医・園医も勤めています。最近、中医学に加えて、「日本胎盤臨床医学会(プラセンタ治療を志す医師の会)」に所属、「ボトックス治療専門医」や「抗加齢医学(アンチエイジング)専門医」なども取得し、新しい治療を取り入れています。



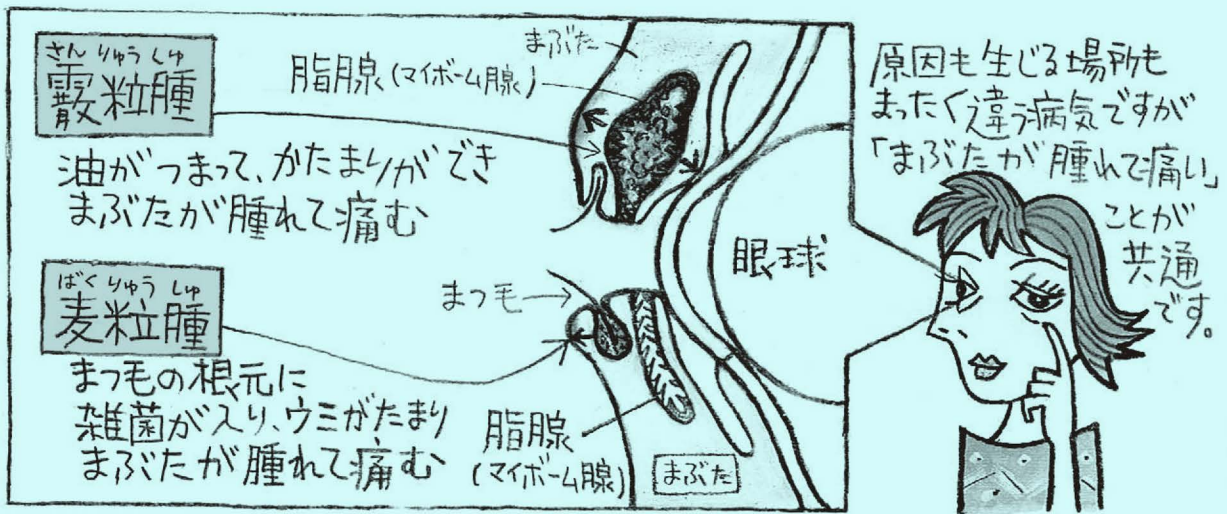
ものもらい

まぶたが赤く腫れ、かゆみや痛みを伴う眼の病気です。霰粒腫(さんりゅうしゅ)と、麦粒腫(ばくりゅうしゅ)という二つの眼の病気を総称して「ものもらい」と呼んでいます。

「まぶたが腫れて痛いのですが」「ものもらい」でしょうか？

“ものもらい”は非常にポピュラーな病気で、誰でも一度くらいはかかったことがあるかもしれません。実は、皆さんが「ものもらい」と呼ぶ病気には、霰粒腫(さんりゅうしゅ)と麦粒腫(ばくりゅうしゅ)という2つの種類があります。霰粒腫はまぶたの中の脂腺(あぶらせん)が詰まる病気、麦粒腫はまつげの根っこに雑菌が感染する病気です。経験上、麦粒腫はごく少数で、「ものもらいのほとんどは霰粒腫」というのが私の実感です。

霰粒腫は、医学的には「非感染性肉芽腫」と言われています。「非感染性」というのは、「ばい菌が原因ではない」ということ、「肉芽腫」というのは炎症で生じたシコリのことです。



●なぜ、ものもらいはできるのですか？

原因については「不明」とされていますが、多くの患者さんを診てきた経験から、現代人の生活(ライフスタイル)と関係があり、

- (1) 睡眠不足
- (2) 甘い間食(特にチョコレート)がきっかけになっていることが多いと感じています。(霰粒腫の場合)



■ 当院での治療方針

(霰粒腫の場合)

- (1) まず、(続発的な感染を防止するための)抗菌剤の点眼を行いつつ、睡眠と食事のライフスタイルを整えて、自然治癒力をはたらきやすくします。
- (2) それで改善しない場合、さらに、たまった脂分を排出しやすくする漢方薬を併用します。
- (3) それで改善しない場合は、固いしこりを切開によって切除します。

●慢性化すると(3)の対応が必要になることが多いので、ものもらいができたら早めの受診をおすすめします。

Q

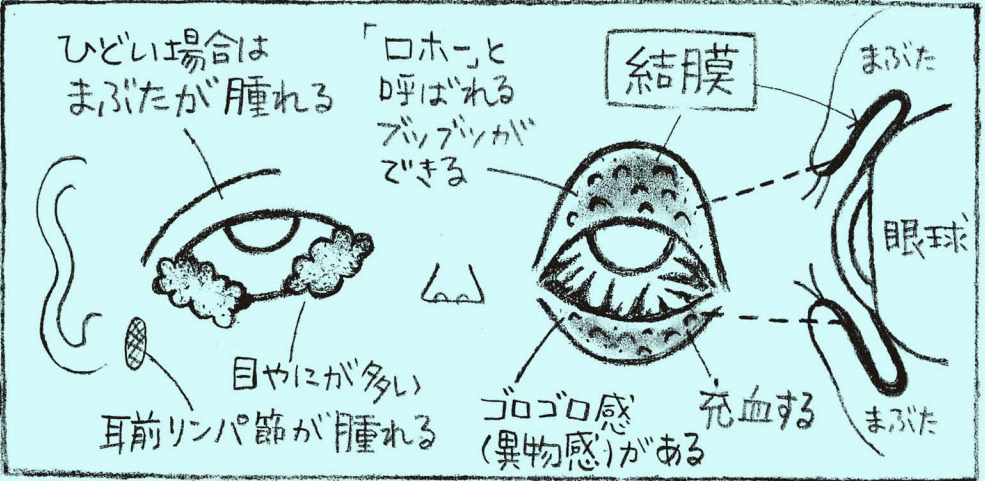
「はやり目」って、どんな病気ですか？

A

「はやり目」は、眼が充血して、目やにが出る結膜炎の一種です。医学的には、「流行性角結膜炎(EKC)」と呼ばれる、「アデノウイルスの伝染で生じるウイルス性結膜炎」です。薬品に強く、消毒薬が効かない困りものです。感染力の強いことから「はやり目」と呼ばれています。周囲の人にうつさない注意が必要です。

●治療は点眼薬を用いての対症療法となります。

発症し、2週間ほどは他の人に感染する危険性があるのでこの期間は、医師の許可が出るまで、学校や会社を休んで下さい



Q

どんなことに気をつけたらよいですか？

A

- (1) 目をこすらないこと。ウイルスは、目やにや涙の中にいるので、目をこすった手で触れたものは、感染源になることがあります。
- (2) 頻りに流水で手洗いをすること。周囲の人も、手洗いをを行うほうがよいでしょう。
- (3) タオルは別々にする。ウイルスは、消毒薬が効きませんが、熱には弱いので使用したタオルを熱湯消毒するのは有効だと思います。

Q

結膜炎は、すべてうつるのですか？

A

いえ違います。結膜炎の病因は、細菌性・アレルギー性・ウイルス性の3つが主なものですが、伝染するのはウイルス性の結膜炎のみで、ほとんどの結膜炎はうつりません。ウイルス性は、3つの中で症状が最も激しく、人にうつりやすいので、そのイメージが結膜炎全体のイメージになっているのですね。



Q

どうやって「ウイルス性」と判断するの？

A

当院では「顕微鏡検査」を併用しています。



症状だけでは、アレルギー性や細菌性と区別が付きにくく、近年、眼中のウイルスを検出する検査キットができましたが、この方法でも、20%は見逃される危険性があります。『細菌顕微鏡検査』は、目やにを採取して顕微鏡で観察し、白血球の種類から3つの結膜炎を区別する方法です。最近では、行われることが少ないのですが、昔からある有効な検査法です。比較的短時間に検査ができ、診断価値は高いものです。



秋なのに「花粉症」?

花粉症は、春の病気と思いがちですが、今の季節でも眼がかゆかったり、目やにや涙が出ている場合、「秋の花粉症」の可能性がります。
ブタクサ、ヨモギなどが、代表的な秋の花粉症の原因植物ですが、当院でも既に8月初めから受診者が増えています。

また、今年の夏のように「高温、十分な日照」などの条件が揃うと、杉の花芽の生育が促進されるので、来年のスギ花粉症も、用心が必要です。
通常は、年明けから飛び始めるスギ花粉の飛散の時期が早まることもあり得るからです。

まだ秋だから…と思わず、お心あたりの方は、遠慮なく御相談ください。



くまがい眼科インフォメーション

9月/10月
土曜休診のお知らせ

9月20日(土)
10月5日(土)

よろしくお願いたします

●ホームページのご案内

- 診療時間・休診情報
交通案内など
掲載しております。
ご活用ください。
- 休診情報には、
携帯電話からも
アクセスできます。



くまがい眼科/ホームページアドレス

<http://kumagai-ganka.com/>



こちらの
QRコードを、
携帯電話や
スマートフォンで、
読み込んでください。

くまがい眼科・診療案内

- 受付時間 午前9:30～午後1:00
午後3:00～午後6:30
- 休診日 水曜、日曜、祝祭日
土曜日午後
- 住所 〒170-0003
東京都豊島区駒込6-26-16
サカガミビル2F
- 電話 **03-3910-2472**

●交通機関

- JRをご利用の場合
 - JR山手線・駒込駅(北口・南口とも)徒歩10分
 - JR京浜東北線・上中里駅より徒歩10分
- メトロをご利用の場合
 - 南北線・駒込駅より徒歩10分
 - 南北線・西ヶ原駅より徒歩10分
- バスをご利用の場合
 - 茶51(駒込駅南口-お茶の水駅前・秋葉原駅前)路線の、駒込駅南口より徒歩10分
- 車で来られる場合
 - 近隣の有料駐車場(多数あり)をご利用ください。



※ 散瞳検査を行う可能性がある場合には、自動車を運転して受診することは避けて下さい。

